



軽防協ニュース速報（号外）

2025年1月22日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

帯広競馬場における馬コロナウイルス感染症の発生

本年1月、帯広競馬場において集団発熱が発生しました。その後の調査において馬コロナウイルス感染症であることが判明したため、その概要をお知らせします。

発生状況

2025年正月ごろより発熱馬が散発、その後発熱馬が急増し、1月12日～14日の競馬開催においては、出走取消26頭、競走除外14頭となりました。発熱馬の検体を北海道十勝家畜保健衛生所に送付し検査したところ、1月16日に馬コロナウイルス（ECoV）陽性が判明したものです（8頭9検体中9検体にて陽性）。感染馬の主な症状は、発熱、食欲不振であり、一部の馬が消化器症状（下痢など）を示しましたが、いずれも予後は良好で、過去の流行とも類似しています。その後、発熱馬は徐々に減少していますが、今後の動向に注視が必要です。なお、帯広競馬場では、厩舎地区における消毒、入退厩の移動制限、開催時の口取り撮影の中止などの防疫措置を行っています。

馬コロナウイルス感染症とは？

馬コロナウイルス感染症はECoVによって引き起こされる馬科動物特有の感染症です。日本国内では、2004年、2009年、2012年に今回と同じ帯広競馬場にて重種馬群で発生しており、2020年には非競走馬の軽種馬群においても発生が認められています。発熱や食欲不振を主徴とする伝染性疾患であり、一部には消化器症状（下痢など）もみられることがあります。感染力は非常に強く、症状を示さない不顕性感染馬の通常性状の糞便からも多量のウイルスが排出することが知られています。

軽種馬防疫協議会